令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬字水先629		
自己評価作成日	令和4年8月24日	評価結果市町村受理日	令和4年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2011年2月1日認知症対応型共同生活介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所を併設し江刺稲瀬地区に開設、本年で12年目、グループホームポランの広場いなせと申します。ポランの広場には宮沢賢治の幻想豊かな童話に出てくる「皆が元気で自分らしく楽しめる広場」「明日への活力を養うことができる理想郷」という意味が込められています。宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名いたしました。目標達成のために教育、研修、会議などを重ね利用者様に安心して生活できる場を提供したいと考えております。家族様には定期通院などで定期来所される際、日頃の状態などや施設からのお願いなどを居室担当職員より伝え協力をいただいております。新型コロナウイルス感染が続いている日常ですが、職員は各自、感染症対策に取りくみ「ウイルスに感染しない、ウイルスを施設に持ち込まない」を合言葉に、行動制限が緩和されても「マスクの着用」「手洗い」「手指の消毒」を徹底してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は田畑や果樹園に囲まれており、自然の空気の中で季節を感じ生活できる環境にある。農業が盛んな土地柄か利用者と畑で野菜を育て、食事やレクを共に楽しんでいる。食堂兼フロアーは高天井で明るく、利用者の作品を飾り親しみやすい空間になっている。運営推進会議では行政や民生委員などの地域の方々との意見交換を行い連携を図っている。職員は明るく、日頃から利用者を笑顔にとアイデアを出し合い、季節のイベントやドライブを企画している。コロナ禍のため、地元高校生の訪問による獅子踊りは中断しているが、家族などの面会は一律に面会禁止とせずに、玄関先や居室の窓越しなど、感染対策を行い可能な限りの思いやりのある柔軟な対応を心掛け、利用者に寄り添い丁寧な介護を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に提出してもらった中から全体会議で決定した。事業所内の唱和しやすい位置に介護理念を掲示、朝のミーティングの際に「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を唱和している。	介護理念「共に向き合い 共に笑顔で 共に支え 共に生きる」は、事業所の開設当初に職員が話し合いで決めたものである。12年が経過し、コロナ禍により大きな変化があり、また管理者、職員も大幅に入れ替わったこともあり、今後に向けて新しい理念や介護の在り方について、職員と話し合いを始めたいと管理者は考えている。	理想とする具体的な介護の在り方を念頭に、新しい理念の策定に向け、管理者を中心とした職員との話し合いの場を速やかに持たれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染が広まって以来、地域との交流や面会の制限が続いている。令和4年7月中旬から8月江刺でも感染者が増加、江刺甚句まつり(7月17日)も車窓からの見学、事業所の夏祭りも内々での食事会となった。	コロナ禍のため、近傍の保育所や学校との交流は見合わせている。例年であれば、地域の避難訓練には声をかけていただき参加していた。近くに事業所も利用している野菜の直売場があり、コロナ禍が収束したら、事業所の夏祭りなどでの交流を企画していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は認知症共同施設として地域の方に施設紹介とお知らせを回覧していたが、現在中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、昨年度と同様に事業所の状況や利用者の様子が分かる資料を送付し、運営推進会議に代えている。唯一5月末に稲瀬地区センターで開催、介護保険制度の臨時的〈柔軟〉な取扱い、避難場所の提供確認、救命講習受講情報等を提案していただき、活用していく。	コロナ禍により、今まで書面会議の形で開催してきたが、5月からは対面で会議を行なっている。委員には、駐在所、消防署からも委員として出席していただいており、避難場所や方法など、事業所が行なう防災対策について引き続き助言をいただくことにしている。	運営推進会議の委員として、利用者代表や家族が入ることで、より利用者本位の意見交換ができると期待されることから、その実現について検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奥州市長寿社会課には介護保険制度に沿った適正な運営を実行するため、Q＆Aでは理解できない事例を問い合わせしている。例として処遇改善や助成金等の書類提出の際に当事業所が適正な運営ができるよう助言をいただいている。マスク等の備品も提供していただいている。	江刺総合支所の福祉課とは、運営推進会議の委員になっている関係もあり、定期的に連絡や意見交換などを行っている。介護保険制度の疑問点などは、市長寿社会課から助言・指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が3ケ月に一度定期会議を開催及び研修、アンケート調査を実施、議事録を作成している。今年度もコロナ禍であり、外部講師を呼べる状況にあらずインターネット等の資料を職員に提示している。またユーチューブ等の業務に役立つ動画を視聴している。	職員は身体拘束適正化に関する意識が高く、これまで拘束事例はない。3ヵ月ごとに開催する身体拘束廃止委員会では、スピーチロックやその言い換え等身近なテーマを取り上げ、管理者や職員が手作りした資料を活用して行っている。	

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止にちなんだ内部研修を行っている。職員から利用者様への行き過ぎた声掛けや利用者様から利用者様への行き過ぎた声掛けに対して注意を払っている。発見した場合はその都度、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しては担当者会議等を交え利用者様のできる事を更に伸ばし、できないことをお手伝いする様に今後も支援していく。成年後見制度に関しては研修のテーマとして検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には契約書、重要事項説明書を提示、加えてパンフレット・料金表を使用。利用者様、家族様が十分に理解できる様に時間をかけて説明し、質問等にもわかりやすい回答に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見は常日頃の会話やレクリエーションでの聞き取りを生かし反映させている。家族との繋がりに関してはコロナ禍により基本的に面会は自粛、電話対応や通院時の受け答えのみとなっているため、十分なコミュニケーションが取れていないのが現状である。	大半の利用者は自分の思いを言葉で表すことができている。以前の家族の要望は、面会に関することが多かったが、その都度工夫し現在は聞かれなくなってきている。家族には、利用者の写真を掲載したボラン便りを毎月お届けしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案を運営に反映させている。（一例として必要な雑貨を予算を決めて購入開始、西日のきつい居室に遮断カーテン設置、ゴミの分別等）。どうしてもコロナ対策（抗原検査キット購入等）に力を入れざるを得ないのが現状である。	職員の意見・提案はいつでも受け付けており、ソフト面、ハード面で様々な意見・提案が出されている。ソフト面のものは、管理者の判断で職員から提案があれば直ちに改善に努め、ハード面で支出が伴うものは、管理者が会社に相談してから具体化している。	職員との個人面談の機会を設け、一人一人の提案を取り入れるとともに、事業所の運営目標に沿った、職員個人の年間目標の設定、振り返りの機会とすることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者からの報告により、職員個々の努力や実績などを把握し、就業環境の整備に努めている。		

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの報告により、ケアの実際と力量の把握に努めている。コロナ禍のため、外部研修や講師を招いての内部研修を避け、オンラインによる外部研修、動画等のインターネット活用した内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はいわて地域密着サービス協会の活動として研修や会議が開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため中止となる。感染収集の見通しが立たないため、現在も活動参加自粛している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前家族とともに面談、更には本人との個人面談で生活歴や嗜好を傾聴かつ分かりやすい説明に努めている。知り得た内容については担当者会議で提示、ケアプランに反映することで職員一人ひとりに周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談を実施している。現状で家族様が本人の言動等で困っていること、今後望むこと、伝えておきたい内容を聞き取りし、今後のサービス提供に反映できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前には利用者様、家族様が現在、必要とされているサービス内容を見極め提案、検討し決定している。尚、状態変化が見られた場合には随時、家族様と連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の介護理念（共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる）を念頭に置き、グループホームという共同生活の場所でお互いを尊重しながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため現在も面会制限をかけており、唯一通院時が数少ない面会の場となっている。通院の際、職員は利用者様の日常生活の変化を家族様に伝えることで情報を共有することができている。また変化した状況に対応できる。		

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況にもよるが、家族、知人との繋がりが保てる様に面会、外出、外泊等を利用していただきたい方針である。遠方から面会にいらした方に対して無下にお断りするのではなく、縁側から窓越しに顔を確認しながら面会できるような体制をとっている。	同居していた家族には感染対策をとったうえで面会していただいている。知人や隣人が訪ねてきた際には窓越しでの面会とし、家族には面会があったことを連絡し、繋がりを保てるよう対応している。突然訪問してくる知人や友人については、家族へ連絡し了解を得てから面会していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相互関係やADL状態変化等を考慮し座席を決めている。年に数回、席替えをして他の利用者との交流ができる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても今まで構築した関係を大切にしている(年賀状やSNS等）。また今後の相談についても対応できる様に心掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃の会話やレクリエーション等で本人の希望や意見を聞き取り、毎日のミーティング及びケア会議にて、情報共有、ケアプランに反映させている。	職員との何気ない会話の中から、食べたいもの、着てみたい服装などの要望があり、その都度職員が対応している。帰宅願望のある利用者に対しても職員が傾聴し、利用者の気持ちを大切にするよう努めている。今やれること以外は、ケース会議などで職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネより新規利用者様の事前情報として職員に情報提供を行っている。利用開始してからは日常会話などで知り得た情報をミーティング等で職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過観察については支援経過表に記入し記録として残している。又、朝夕のミーティングや職員会議、居室担当者会議等を利用して報告、改善、周知に努めている。		

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会制限を継続している。電話や通院等で来所された際に本人の状態、日常生活での出来事を伝えたり、それに対しての家族様の意向を伺っている。利用者様の日常生活で知り得た内容や家族様の意向をミーティングや担当者会議で報告、介護計画に反映させている。	日常生活の中での会話や様子から、担当者とケアマネが話し合い、利用者、家族、かかりつけ医などの意見を取り入れて作成している。職員は日常の介護を通じ計画に挙げている項目を確認しながら、特段の事項についてはケアマネに報告して次の計画に反映させている。モニタリングは居室担当が中心に行い、見直しは3ヵ月又は6ヵ月毎に行い、その都度本人、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子を支援経過表に記録しミーティング等で報告している。また知り得た内容についてはミーティングや担当者会議にて報告、モニタリングを重ね介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対して柔軟なサービスができるように会議を利用する等、職員一同取り組んでいる（日頃の日常会話や家族様の意向を傾聴している）。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上三照会館、稲瀬地区センター等地域共有施設の把握・利用、産直やドライブレクスポットの把握、踊り等の芸能活動媒体の活用、地元及び出張理美容把握・活用、安全で豊かな暮らしを楽しめ得るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族様にお願いしている。家族様の都合が悪く対応できない場合には施設対応となる。通院の際、看護師または介護支援専門員が同行、気になる状態変化については主治医に報告し適切な医療を受けられる様に心掛けている。	全員入居前からのかかりつけ医を継続受診している。通院は家族同行を基本とし、事情によっては職員が代わっている。症状に応じ隣接の小規模多機能ホームを兼務する看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活で知り得た内容を記録し、ミーティング等で全体報告、情報を共有している。又、個々の体調変化についても看護師と連絡を密に取り緊急時でも対応できる様に心掛けている。		

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には家族様、医療機関と連絡を密に取り、利用者様の情報を共有している。また入院中や退院する際の医療カンファにも家族様と同席することで利用者様が安心して生活出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に当事業所は看取りができないこと説明、家族様にはご理解をいただいている。終末期に近づき重度化されつつある利用者様に関しては看取りを行っている施設を紹介している。介護度の変化に伴い特養や老健への申し込みもお願いしている。	現在、看取りは行っていない。入居の際に、重度化や終末期の対応について事業所が対応し得る範囲や方針を本人、家族に説明し、了解を得ている。利用者の介護度が3以上になった場合には、家族、かかりつけ医と話し合い、近くの特養施設などへの申し込みを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誰もが確認できる場所に事故発生対応マニュアルを掲示し速やかに対応出来る様にしている。また定期的に応急手当や初期対応（心配蘇生法）習得について消防署に講習を依頼し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、地域全体の水害を想定した避難訓練は中止となっている。また火災を想定した避難訓練については原則6月と10月、年2回実施している。施設独自の水害を想定した避難訓練も実施している。	年2回の避難訓練を行っている。6月に夜間を想定した訓練を実施し、職員の避難誘導時の声が小さいことが反省点として挙げられた。10月に予定している避難訓練では、その反省を生かすことにしている。コロナ禍の状況に応じ、地区全体の訓練にも参加していく予定としている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会が先立ち、声掛けについての資料提供等行っている。苗字ではなく名前を呼ぶ等親しみを込めたコミュニケーションとなることもあるが、長年利用者様と職員の信頼関係を築いた上でのコミュニケーションであり基本的には人生の先輩を敬う言葉かけを心掛けている。	利用者への声掛けは、本人の希望を聞いて名字か名前のどちらかにして「さん付け」で統一している。トイレなどで失敗した際にはプライド、羞恥心に配慮した介助を心掛けている。	

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの中で利用者様とのコミニュケーションを取ったり本人の好きな事、嫌いな事等を聞き取り個々の希望や生きがいを見つけ出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活の中で利用者様個々の生活リズムを考慮しマイペースで生活出来る様に柔軟支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望をお伺いし訪問理容日に散髪していただいている。ご自分で自由に着替えが出来る様に自室のタンスに衣類等を保管している。出来ない方に関してはこちらからお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事に関してはほぼ職員が準備、提供している。配膳やテーブル拭き、食事前の消毒手伝い、片付け等利用者ができることを職員と一緒に行っている。月のレクリエーションで特別食やおやつを提供する際には準備から調理まで職員と一緒に行うこともある。	調理は職員が行い、利用者は配膳など出来ることを手伝っている。敬老会などの行事食は、職員が利用者の好みに配慮し、メニューによっては利用者と職員で準備や調理をし、作って食べる楽しさを実感している。畑で採った紫蘇を使った紫蘇ジュースは、利用者が職員に教えながら作ったものである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかずに関しては外部業者に委託、栄養バランスを管理していただいている。水分補給に関しても主治医と相談して個々の水分量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員の見守りの中で口腔ケアを行って頂いている。介助の必要な方に関しては一部介助、全介助も行っている。又、口腔ケア中等に異常がみられた場合には家族様へ連絡し歯科受診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に排泄の記号（○⇒排尿、●⇒尿失禁、△⇒自立排便、▲⇒便失禁）を決め量や状態の記入をしている。又、個々の排泄状況を見極め紙パンツから布パンツ、布パンツから紙パンツに変更する等その方の状態変化に対応している。	利用者一人一人の力に合わせ、職員が排泄介助を行っている。日中、自立してトイレに行ける方は3名で、他の人は昼夜間とも職員が介助している。職員は普段失敗しない利用者が失敗しても、今の気持ちを尊重し、プライドに配慮した対応を心掛けている。	

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入して個々の排尿、排便状況の把握に努めている。定期的なテレビ体操や運動量の少ない方には簡単なお手伝い等をして頂き少しでも体を動かして排泄を促す様に努めている。又、個々の定期的な水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週の入浴日は基本的に事業所で決めている。入浴前には必ず本人に意思確認をしている。また不穏状態、外出、受診等で入浴できない場合は曜日、時間をずらすなどして柔軟対応を継続している。	週2、3回を目安として午前中に入浴している。体調が優れなかったり、通院などの場合には随時変更している。ホームは家庭浴槽で個浴だか、隣接の小規模多機能ホームの大浴場で入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ居室に戻り休息を取ってもらっている。又、日中に傾眠されている時等は声掛けして居室誘導する事もある。長時間、椅子に座っている方等にはむくみ防止の為、長座位やベットで横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様別の処方箋一覧を作成し用途、副作用を誰でも職員が確認出来る様にしている。薬の準備や服用する際には職員同士で薬のダブルチェックをする事で誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写経や塗り絵等、個々の趣味や手指活動が絶やさぬような支援に努めている。また個人が今まで培ってきた内容や日常生活での自立度が失われない様にできる事は職員の見守りの中で行っていただくことで本人の自立支援を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍、利用者様の外泊に関しては感染防止のため、自粛継続している。外出については多人数との接触がない限り家族様にお願いしている。戸外の催しへの参加についても自粛継続しているが、月に2回程のドライブで江刺甚句踊りや展勝地紫陽花見物、または特に目的を設けないで車窓からの景色を楽しんでもらっている。	以前はコロナ対策で徹底して外出を控えていたが、最近ではで少しづつではあるが、ホーム裏の畑に植えてある胡瓜や西瓜などの成長を確かめに日光浴を兼ねて外に出ている。天気の良い日には利用者に声をかけ、ドライブに出かけている。遠野の森林風景や花巻の新しくできた道の駅など、様々な場所へでかけ風景を楽しんでもらっている。	

令和 4 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値観を忘れない様、レクリエーションの中で実際に使って頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの電話対応等については事前に家族様を通じて施設に連絡を頂いている。又本人様から家族様に対して電話の訴えがあった場合には時間帯を考慮して会話出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者様が共有している空間の（温度、匂い、音、光、広さ）等を常に気にして調整している。又、ホール内には季節感を失わない様に季節の貼り絵や行事写真等を掲示している。	日中に多くの時間を過ごす食堂兼ホールは、高天井で明るく開放感がある。壁にはポランの美術館と称し、利用者の笑顔いっぱいの写真や貼り絵などを掲出し、親しみやすい雰囲気にしている。、レクの時間なのか「なぞなぞ大会、」などの楽しい笑い声がホールから聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能ホームとグループホームが併設されている事もあり、食堂・ホールも隣設している。両者は常に解放されている為、好きな時に行き来されたりお話しされたり利用者様の自由空間として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に一人部屋を提供している。個人での偏りがあるが、今までの生活で使い慣れた物、思い出の写真等を居室内に置いたり掲示して本人が安心して過ごせる様に工夫している。	ベッド、箪笥、エアコン、パネルヒーターが備え付けになっている。愛着のあるもの、思い出の品などを持ち込み、職員は利用者好みの配置にし、安心感のある居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには自分の居室が認識できるよう利用者名掲示、トイレと分かるようトイレと掲示している。居室からトイレまで安全な移動のため、矢印を活用している。トイレ内は手すりの活用、手すり使用の声掛けにより、安全な環境作りに努めている。		